


新聞掲載記事の紹介

飯田 伊那



飯田下伊那地域の相談窓口を記したポケットティッシュ

児童虐待防止取り組む有志 飯田下伊那でティッシュ配布

児童虐待防止に取り組む市民団体「ながのオレンジリボン」の飯田下伊那地域のメンバーが、同地域の相談窓口を記したポケットティッシュを作って配り始めた。川上薬局（飯田市）では、妊娠検査薬売り場近くに置いている。

ながのオレンジリボンは2020年に県内の主な相談先を記したチラシを折り込み、ティッシュを配布。今回は身近な相談先を周知しようと、子育ての困りごとを相談できる飯田市子ども家庭応援センターや飯田児童相談所、妊娠に関する相談先「にしんSOSながの」など20カ所の電話番号やQRコードを記した。イラストは虐待防止に取り組む絵本作家なるかわしんごさん（名古屋市）が担当した。

2000個を用意。オレンジリボン事務局で飯田市の児童養護施設「おさひめチャイルドキャンプ」職員の安藤民平さん（46）は全国で子どもの虐待死が相次いでいることを懸念し「これだけの相談先があることを広め、みんなで見守る社会にしたい」と話した。

信濃毎日新聞 10月1日付

子どもを虐待しないで

飯田 ティッシュに地元情報添え啓発

有志でつくる「子どもも虐待防止ながのオレンジリボン」（事務局・飯田市）は今年、名称を「ながの子」も虐待防止オレンジリボンから変え、たすきリレーができていないコロナ禍での啓発に力を入れている。飯田下伊那地域では、地域専用のチラシをポケットティッシュに添え、配布を始めた。

折り返しチラシの表紙には「子育て、家庭の困りごと、ひとりで抱え込まないで」「どんなに小さなことでも大丈夫です」とメッセージを添えた。中を開くと、地域内の家庭支援センターや児童相談所、自治体の相談係といった連絡先が記載されている。ポケットティッシュには

従来、県内全域の情報を載せていたが、地域専用を作ることで身近な内容を詳しくした。配布先は、活動に協賛する事業所や店舗と一緒に置いた。

飯田下伊那地域向けの作った配布するポケットティッシュ＝飯田下伊那で

十一月は児童虐待防止月間で、児童虐待対応ダイヤル「189番」の啓発イベントを計画。事務局の安藤民平さん（46）、森谷輝さん（46）は「どんな親も条件がそろえば虐待してしまう恐れがある。責めるのではなく、相談してもらって皆で支える地域や社会にしたい」と話している。（石川才希）

中日新聞 10月14日付

虐待防止の催し 市長に周知要望

長野で実行委 来月開催 11月の児童虐待防止月間に



県内で開かれるイベント「子ども虐待防止ながのオレンジリボン2022」の実行委員が21日、長野市役所に萩原健司市長を訪ね、イベントの周知などを求めた写真。

イベント開催期間は11月15～19日。虐待対応ダイヤル「189」（いちばやく）の数字にちなんだ動画や静止画をSNS（交流サイト）に投稿する「189チャレンジ」や、啓発活動がある。

市内の児童養護施設に勤める実行委員の荒井俊樹さん（43）らが市長と懇談。11月3日にはJR長野駅で啓発活動をすることも説明し、「一般の人にも身近な問題だと感じてほしい」と話していた。

信濃毎日新聞 10月22日付